

第3回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事概要

■日時：

令和元年11月12日（火）10時00分～12時00分

■場所：

草津市役所101会議室

■出席委員：

中川委員、土山委員、重原委員、梅村委員、花澤委員、辻委員、宮下委員、東川委員、堀井委員

■欠席委員：

井上委員

■事務局：

【行政】

中村副部長、角課長、中立課長補佐、大野課長補佐、大溝主事

■中間支援組織

【(公財)草津市コミュニティ事業団】

諸岡氏

【(社福)草津市社会福祉協議会】

村山氏

■協働コーディネーター

阿部氏、仲野氏

■傍聴者：

0名

1. 開会

【事務局】

皆様おはようございます。定刻になりましたので只今から令和元年度第3回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を開催させていただきたいと思います。本日の会議については、先日の市民LIVEフォーラムについて報告させていただき、第2次草津市協働のまちづくり推進計画（案）について議論いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、中川委員長、進行の方よろしく願いいたします。

【委員長】

先日はL I V E市民フォーラム大変お疲れ様でした。簡単にまとめていただいておりますが、当日の話し合いの内容、御感想を一言ずついただければと思います。

【B委員】

普段会わない方と話ができたと、違う分野の方と話ができてよかった。もう少し時間あれば良かった。

【G委員】

私自身とても勉強させていただけて良かった。

【H委員】

様々な活動をされている方の話が聞けて参考になり、良い勉強になった。

【E委員】

参加者から、「非常に居心地がよかった」との意見があった。私自身、つながり方のヒントを得ることができた。

【D委員】

参加者の多くがまちづくりに携わっている方で様々な意見があった。多くの意見が聞き取れる形式で実施ができてよかった。

【A委員】

参加された方が計画に示唆をいただける機会にできたのではないかと感じる。大変、色々な知見をいただけて良かった。つながれる場やつながりを醸成したり、それを活かしたりする場や機会についての言及が多かったように感じる。

つながる相手としての外国人住民について意見いただき、今後つながる対象として意識する必要があると感じた。

また、“民主的な”というキーワードが出てきていたのも印象的であった。誰もが尊重される民主的な姿勢や関係性を、場や機会を作る時に意識していく必要があると感じた。

【委員長】

参加して感心したことがいくつかあり実りがあった。

人が人を知っていて、尊重し合っているまちだと感じた。頑張っている人が上から目線にならず、民主的な基盤があるように感じた。これは財産であり、これから活かしていくことが利点であると感じた。

2. 審議事項

第2次草津市協働のまちづくり推進計画策定に向けて

【事務局】

<資料に基づき説明>

【A委員】

草津市の特性として外国籍市民の方の増加や住民票の有無に関わらず若い市民としての学生の巻き込みについて15ページで入れるべきであると感じた。

もう一つ、市民にもっとまちづくりや市民の声を情報提供してほしいという意見についても落とし込めればよいと感じた。

市の役割ですが、市民の声を市民に提供するような機会について、記載できれば良いと感じた。また、つながる場や機会としての市の事業があるので、それらを活用することについて「つながる」の項目の中に入っても良いのではないかと感じた。

【B委員】

16ページの「人望」に関する文章に違和感があるため再考すべき。男女共同参画の推進に関して、記載いただきたい。

【C委員】

町内会の加入率が89.8%になっているが、今後加入率が下がる可能性があることが心配である。また、若い力をどのように取り入れていくべきか考える必要がある。

【G委員】

子どもたちの中には、難しいことに対してもとても良い意見を言ってくれる子もいると感じている。話し合う機会をつくることで、周りの子どもも影響を受け、意見を言う力を学んでいくのではないかと感じる。もっと若い人の力が活きる機会があれば良いと感じる。

【H委員】

地域協働合校の推進に満足されている方の割合について、参画している子どもの親にアンケートを取ったらもっと高くなり、事業自体を知らない人もいる中で、誰を対象に調査しているのか気になった。

【E委員】

中間支援組織のコミュニティ事業団と社会福祉協議会のそれぞれの説明を統一すべきである。目的や役割について整理した方が良い。

【D委員】

役員については、どうしても担い手不足の課題があり、長期間担っている方もいる。転入してきた方が参加しやすいような仕組みづくりも必要である。

【委員長】

11ページの協働担当とか本部体制の説明が必要である。また、地域協働合校に関する説明もしていただきたい。

目標値の設定については、意識調査はできるだけ避けた方がよい。世の中の景気が調査結果に影響を与える傾向がある。“人望”に関しては、面識的關係や相互信頼・協力の力、民主的な運営や組織的な地域経営能力が求められてきていることについて記載すれば良い。町内会の加入率については、現状維持の数値に修正すべきである。

【事務局】

目標値の設定については再度整理します。

【委員長】

目標値の設定について、市民公益活動団体数が増えることは良いことなのか、評価の対象にすべきかどうか、協働コーディネーターの阿部氏に御意見をいただきたい。

【阿部氏】

活動内容や目的等が重要であるが、認定NPO法人数はどうか。あるいは、草津市と協働事業をやっている市民公益活動団体数はわかりやすいのではないか。

【委員長】

市民公益活動団体に関する目標値については再考いただきたい。

小中高校の生徒が地域社会との協働事業に参加した実数がわかれば良いが、数値の把握が厳しいと感じる。

【A委員】

学校の方で、総合学習の時間に、地域や地域と繋がるような活動をした時間等は教育委員会で把握できないか。

【委員長】

中間支援組織の記載については、わかりやすいように工夫すべき。登録団体数を目標値に設定するのはいかがか。

【事務局】

お互いさまプロジェクトに関して、中間支援組織と協議しながら、開催数等について目標値を検討していきたい。

【委員長】

全事業のうち、協働事業という定義の中で当てはまる事業の比率を目標値に設定すべき。また、協働に関する研修を受けた職員の比率についても設定するのはどうか。

【A委員】

教育機関の目標値について、市と多面的な地域と連携する機関として、せっかくアーバンデザインセンターがあるため、アーバンデザインセンターと大学との連携に関する目標値の設定を検討してはどうか。アーバンデザインセンターの利用者における学生の割合などという目標が入ってきても良いのではと感じる。

【委員長】

人材育成に関して追記していただきたい。地域リーダーやお世話役を担ってくださる人が登場しやすくなるような人材開発のプログラムと、そのような方を育成させる仕組みが必要である。目標値としては、人材育成に関する講座の開催数や受講者数となる。

【A委員】

「役員は厳しいが、〇〇ならできる」という市民もいるため、役割分担の支援についても記載してはどうか。

【委員長】

以上の意見について事務局の方で再考してください。
それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】

ありがとうございます。今年度あと2回程度委員会の開催を予定しておりまして、次回は12月6日（金）の開催となっておりますのでよろしくお願ひします。

それでは、これを持ちまして、第3回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を閉会させていただきます。

3. 閉会
